

日本損害保険協会の寄附金による医療機器の整備

このたび、一般社団法人日本損害保険協会から「交通災害等救急医療機器整備事業」として寄附金を受け、医療機器を整備しました。

■整備機器

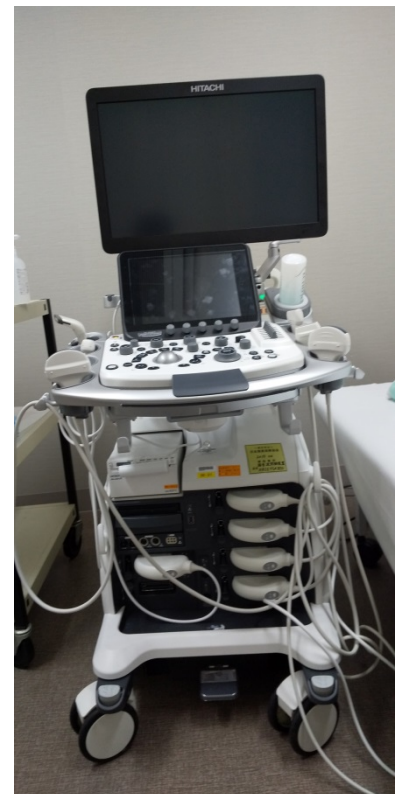
超音波診断装置 ARIETTA850(メーカー：株式会社日立製作所)

■整備場所

検査部 生理検査室

■特 徴

1. コンベックス、セクタプローブで単結晶を採用しており、高感度化、広帯域化によるハイクオリティな画像を得ることが可能となる。
2. 高度な演算処理を行うための画像処理エンジン「Active Backend」を搭載しており、高精度な画像の提供が可能となる。
3. 検査のプロトコルをあらかじめ登録しておくことが可能となり、操作時間の大幅な削減や画像の取り忘れの防止等により、短時間で効率よく、客観性の高い検査をサポートできる。
4. これまで描出困難であった低流速の血流を表示するため、新しいイメージング技術 (Detective Flow Imaging) を搭載しており、微細な血流をより高分解能に感度よく描出できる。
5. 同一断面で2か所のドプラ波形を観察でき、また血流だけでなく組織ドプラとの組み合わせも可能となる。



この超音波診断装置を導入したことで、交通事故をはじめとする救急医療体制のより一層の強化を図りたいと考えています。

日本損害保険協会をはじめとする関係者の皆様に御礼申し上げます。